



手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

第10回支援活動の記録 2015年9月12、13日 (宮城県宮城郡七ヶ浜町)



手づくり支援プロジェクトとは


私たちは震災直後から東北の被災地で栃木の名産である**益子焼などを提供する陶器市イベントを開催**してきました。避難所で多くの方々からサララップを敷いた発泡スチロールの食器で食事をしている姿をTVでもよく見たと思います。私たちの職場でも震災後しばらくは発泡スチロールの器を毎日洗いながら再利用し、日に日に変形劣化してゆく容器で、冷たい味気ない食事をしていました。被災地での辛さとは比べようになりませんが、自分たちでさえこのような辛さを感じていました。

その後、徐々に仮設住宅ができ、避難所から仮設住宅に入居が始まりましたが、仮設住宅には基本の食器のset(飯椀、湯呑、小皿など)はありますが、数や種類は少なく、すべて量産品の画一なもので、まるで病院の食器のように感じました。

栃木にいる私たちが地元東北の為に何ができるだろう、といういろいろ考えましたが、栃木も益子や芳賀など多くの被害があり、友人に被害を受けた益子の陶芸家も多くいたこともあり、栃木と東北を両方支援できたらと、社内、関連メンバー、益子の陶芸家たちとこの支援活動をスタートさせました。仕組みは一般の募金(個人や協賛店)で器を購入し、それを私たちが直接被災地へ届けるというものです。一般の方々、お店、作家の協力により、お金は栃木、益子に循環させ、器を東北へという流れで双方を支援する形をとっています。器は生きる基本である「食」に彩りを与え、復興に向けた毎日の生活の中で少しでも明るく元気になるような一助になってもらえたらという想いでこの活動を行っています。

↓陶器市や協賛店でのフライヤー(現在)

一般/協賛店支援
募金/募金箱設置



支援金の提供
(寄付、協賛店の募金協力)


手づくりの器を被災地へ届けよう!

手づくりの「器」は、生きる基本である「食」に彩りを与えます。そんな「器」で、復興に向けた毎日が少しでも明るく、元気になってもらえたら、という想いで活動しています。

→ **手づくり支援プロジェクト** ←

器購入 → 手づくりの器

作家による支援
食器提供(益子焼など)



協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

- 被災地での配布** 陶器市イベント・上代の3割での提供
 ・B品/半端品などの無償提供
 ・陶器市での募金推進協力
- これまでの活動実績!** 手づくりの器約1万4000個を届けました!
- 2011年7月 山田町(4000個を届け)
 - 2011年12月 大塚町(釜石市)2700個を届け
 - 2012年7月 陸前高田(3000個を届け)。全充上を寄附
 - 2012年12月 気仙沼市(1200個を販売、全充上を寄附)
 - 2013年6月 東松島市(1100個を販売、全充上を寄附)
 - 2013年12月 石巻市(600個を販売、全充上を寄附)
 - 2014年3月 石巻市(700個を販売、全充上を寄附)
- ◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索
<http://www.handsmade-project.info.com>
 ◎支援金の口座 銀行振込 定額銀行「郵便口座」(番) 92330334
 口座名義 手づくり支援プロジェクト

活動の軌跡

2011 3月末 岩手出身の光房みちが友人の陶芸家 本支プロジェクトを相談、友人の約20名の作家の賛同を得てスタート 矢川士郎氏、矢川杏子(筆作家)氏も参加し、募金活動のノベルティグッズを考案



サバイバル用のホイッスルに「二度と使うことがないように」と願いをこめて、手づくりで革のカバーに器の焼印を一つ一つ入れ製作

「手づくり支援プロジェクト」は被災地へ手づくりの器を届ける支援活動で、一般の方々からの支援と、モノづくり作家による支援の、両方による東北支援活動です。現在、約60の協賛店、90名以上の作家が参加してくださっています。

4月 同郷の小向麻子氏も加わり、HP製作、法人口座開設 益子春の陶器市での協力作家への呼びかけ、募金開始



手づくり支援プロジェクト(協力作家、協賛店など)

・協力作家(名前の順)

相澤のりあ	宮藤優子	藤原典子	中村かりん	遠藤良子
阿久津理子	堀山友里	成田真由	成田真由	百間なる美
松井雅也	藤村真由	坂本舞子	Masa	ソフトバンク
加藤あゆみ	加藤あゆみ	佐藤あゆみ	佐藤あゆみ	インターパーク宇都宮
伊田美津子	加藤あゆみ	野村あゆみ	野村あゆみ	ソフトバンク宇都宮
石橋あゆみ	加藤あゆみ	野村あゆみ	野村あゆみ	ソフトバンク宇都宮
小嶋あゆみ	加藤あゆみ	野村あゆみ	野村あゆみ	ソフトバンク宇都宮
伊藤あゆみ	加藤あゆみ	野村あゆみ	野村あゆみ	ソフトバンク宇都宮
大塚あゆみ	加藤あゆみ	野村あゆみ	野村あゆみ	ソフトバンク宇都宮
...

・協賛店(募金箱/グッズ設置協力など)

Company	Food
ジョイコム株式会社	pain de musha musha and coffee
マサ	パン工房 小島堂
ソフトバンク	ぱんとおかし ナン
インターパーク宇都宮	食工研NO-HA
ソフトバンク宇都宮	むらさき大野
ソフトバンク宇都宮	Tavanna Sakurai
ソフトバンク宇都宮	朝野園
ソフトバンク宇都宮	リフト・クリスタロフ
ソフトバンク宇都宮	Bis-t-eria Mel-Melo
ソフトバンク宇都宮	TORATTORIA da RIOBA
ソフトバンク宇都宮	...

本ボランティア活動に、ぜひみなさまのお力を貸してください!

◎ご寄付 ほんの気持ちで構いません、小さな力も集まれば大きな力になります!

◎募金箱、募金促進グッズ設置の協力 お知り合いのお店やギャラリーなど、設置協力にぜひお声を掛けてください。

5月 協賛店への募金箱、グッズ設置協力依頼開始 提供場所検討開始、山田町役場と相談

6月 現地視察、自治体ボランティアセンターにて打合せ 27日、NHK「首都圏ネットワーク」で「いっとろっけん」で紹介される

7月 1日、NHK-FMで放送 21~24日第一回陶器市開催(岩手県 山田町) 22日、毎日新聞に掲載 29日、NHK「首都圏ネットワーク」で開催の様子を放送

8月 3日、NHK「おばんですいわて」岩手でも放送

11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め

12月 10日、第二回陶器市開催(岩手県 大槌町)

- 2013
- 3月 「ソトコト3月号」に掲載
 - 4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
 - 6月 7日、下野新聞に掲載
 - 7~9日、第五回陶器市開催(宮城県 東松島市)
 - 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め
 - 12月 14~15日、第六回陶器市開催(宮城県 石巻市)
- 2014
- 3月 16日、第七回陶器市開催(宮城県 石巻市)
 - 7月 26日、第八回陶器市開催(宮城県 南三陸町)
- 2015
- 2月 28日、第九回陶器市開催(宮城県 名取市)
 - 1日、毎日新聞に掲載
 - 9月 13日、第十回陶器市開催(宮城県 七ヶ浜町)

2012

- 3月 14日、下野新聞に掲載
- 4月 益子春の陶器市開催、募金活動~器集め
- 7月 14~15日、第三回陶器市開催(岩手県 陸前高田市)
- 15日、岩手日日新聞に掲載
- 17日、三陸経済新聞に掲載
- 11月 益子秋の陶器市開催、募金活動~器集め
- 12月 8日、第四回陶器市開催(宮城県 気仙沼市)
- 23日、下野新聞に掲載

七ヶ浜町について

七ヶ浜町は仙台市から15kmほど北東に位置する半島状の町で人口は約2万1000人、面積は約13.2km²と東北地方では最小の町です。名前の通り「7つの浜」に囲まれ、漁業や観光が盛んで「菖蒲田浜」は東北で最も古い海水浴場といわれ、サーフィンのメッカとしても親しまれています。昔ながらの漁師町のほか、仙台のベッドタウンとして新興住宅地も開発され、外国人の避暑地として造られた「高山国際村」は外国人により「山の軽井沢、湖の野尻湖、海の高山」と称され、「日本三大外国人避暑地」の1つとされています。東日本大震災では町の面積の約1/4が浸水し、沿岸の集落は壊滅的な被害を受けています。



1. 被災状況(町公表データ 2013/10時点)

- 死亡者数 108人
- 安否不明者数 2人
- 仮設住宅数 421戸(7団地)

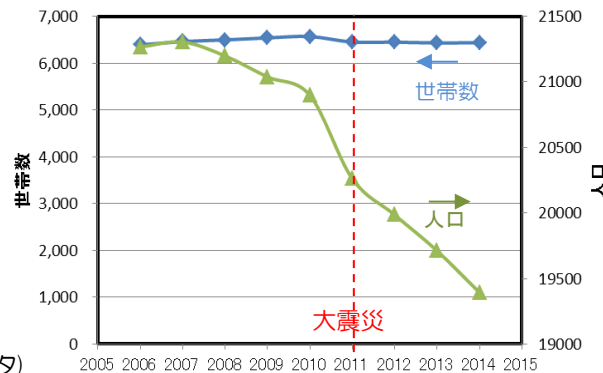
2. 被災棟数の内訳

全壊	半壊/大規模半壊	一部破損
675棟	649棟	2598棟

3. 世帯数、人口の変化

	世帯数	人口(人)
震災前(2011/2)	6568戸	20877
現在(2015/10)	6434戸	19223

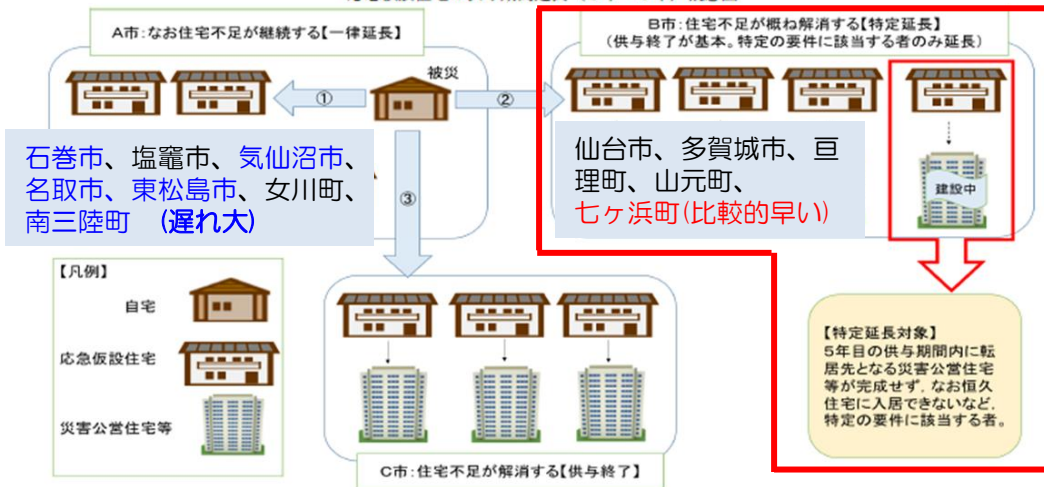
世帯数に大きな変化は見られないが、人口は年々減少傾向、2011年の震災以降大きく減少しています。(グラフは各年12月のデータ)



4. 仮設住宅

- 27年10月現在では6つの仮設住宅団地、計258戸(567名の方が居住)で、だいぶ減りつつあります。七ヶ浜町は災害公営住宅の建設はこれまで支援を行った以下の自治体(青字)に比べ比較的早く、下図のように一律延長ではなく、特定延長措置が取られています(災害公営住宅の進捗は次項参照)。

応急仮設住宅の供与期間延長(5年→6年)概念図



5. 七ヶ浜町の被災の特徴

14時46分の地震で町内で震度5強が観測され、菖蒲田地区の津波浸水高は12.1mとされています。七ヶ浜町では標高の低い平野部が多く、上記地区を中心に沿岸の集落に壊滅的な被害を受けました。

七ヶ浜町住宅復興及び地域復興事業 整備箇所図(※七ヶ浜町HPより)

凡例 [表記名:事業名]

[高台団地]	防災集団移転促進事業
[災害公営]	災害公営住宅整備事業
[区画整理]	被災市街地復興土地区画整理事業
[避難所]	地区避難所整備事業
—	完成

高台の団地がいくつも作られています
(赤線のひかれた地域は完成している団地)。
今回終了が決まった七の市商店街の店舗
が移るのが笹山地区です。



吉田浜地区の災害公営住宅(H27.3完成)
3棟6戸(1LDK2戸、2LDK3戸、
3LDK1戸)の木造平屋で長屋タイプに
なっています。総工費1.3億

数字で見る七ヶ浜町の状況

災害公営住宅の着手状況(宮城県データ)

※H27.9.30時点

市町名	計画戸数	着手		完了戸数		
		地区数	戸数	進捗率	進捗率	
仙台市	3,179戸	48地区	3,179戸	100.0%	2,752戸	86.6%
石巻市	4,500戸	76地区	3,410戸	75.8%	1,552戸	34.5%
塩竈市	420戸	10地区	420戸	100.0%	94戸	22.4%
気仙沼市	2,130戸	29地区	2,130戸	100.0%	380戸	17.8%
名取市	716戸	3地区	422戸	58.8%	92戸	12.8%
多賀城市	532戸	4地区	532戸	100.0%	208戸	39.1%
岩沼市	210戸	1地区	210戸	100.0%	210戸	100.0%
東松島市	1,010戸	15地区	831戸	82.3%	497戸	49.2%
亶理町	477戸	11地区	477戸	100.0%	477戸	100.0%
山元町	484戸	5地区	484戸	100.0%	364戸	75.2%
松島町	52戸	3地区	52戸	100.0%	52戸	100.0%
七ヶ浜町	212戸	5地区	212戸	100.0%	54戸	25.5%
利府町	25戸	1地区	25戸	100.0%	25戸	100.0%
女川町	860戸	11地区	518戸	60.2%	230戸	26.7%
南三陸町	738戸	8地区	738戸	100.0%	104戸	14.1%
登米市	84戸	6地区	84戸	100%	60戸	71.4%
涌谷町	48戸	3地区	48戸	100.0%	48戸	100.0%
栗原市	15戸	3地区	15戸	100.0%	15戸	100.0%
大崎市	170戸	6地区	170戸	100.0%	170戸	100.0%
大郷町	3戸	1地区	3戸	100.0%	3戸	100.0%
美里町	40戸	3地区	40戸	100.0%	40戸	100.0%
21市町	15,905戸	252地区	14,000戸	88.0%	7,427戸	46.7%

9月時点では左表のように災害公営住宅
(仮設住宅からの移転)についても、完了戸
数の進捗率は25% (宮城県は2年後の平成
29年度に全戸完成させる目標)になってい
ます。この状況を鑑み、5→6年の特定延
長措置が取られています。

私たちが引き続き、この活動を上記完成
を一つの目標として支援を継続してゆきたい
と考えています。

七の市仮設商店街と新しい災害公営住宅(写真で見る被災地：2015.10月現在)



現在、七ヶ浜町内で完成した災害公営住宅は3カ所で、計画する計5カ所の整備が年内に終わる予定になっています。

これからますます器のニーズも高くなってくると予想されます。

出来立ての菖蒲田浜災害公営住宅
(H27.10.引渡)

住宅のコミュニティガーデン
(部屋のタイプは1LDK~3LDKまで)

七ヶ浜町での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、これまで同様にチャリティー陶器市という形で開催しています。

今回は七ヶ浜町の七の市商店街が主催する「んめえのあっと市 ありがとう祭」のなかで、仮設商店、地元産物などの出し物とともに陶器市を開催しました。

この仮設の商店街は平成23年12月にオープンし、もう少しで4年になりますが、平成27年11月にすべての店舗が移転し、本格的なお店を開店するというので、今回が仮設商店街として最後のイベントとなりました。震災から約4年半、仮設の商店街からようやく再建、という嬉しい変化を実際に見ることができ、我々メンバーも感無量でこのイベントを行いました。小さな商店街ですが、ひとびとの活気にあふれ、またボランティアの団体も継続的に活動を支援していました。また、子供のふれあいを大切にされた施設もあり、魅力的な商店街になっていました。

今回も県内外の多くの作家さんから提供いただいた器(約2500点)を全て現地へ運び、色とりどりの器で陶器市を開催することが出来ました。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、陶器市を開催しています。

↑感謝祭のポスター(陶器市の記載も)

メンバーの活動風景 9月12日(土) 出発



- AM9:00 器を保管していただいている宇都宮のレストランNORAさんに集合。これまで準備した器(約2500個)を梱包したコンテナ72個を車へ積み込みます。行程のフリージングなどを行い、まずは器を満載した先発隊で6名で出発しました。(今回は計6台、12名のメンバーで活動を行いました)



- PM2:30 宇都宮から約280km、現地へ到着。商店街は海岸から少し高台になったところに位置し、周りは緑が多くとても環境のいいところです。七の市商店街は震災後にオープンした仮設市場ですが、今回ようやく正式な店舗への移転が決まり、これを祝して地域住民への感謝イベントを行います。今日は事務局に挨拶し、明日の開催に向け、テント設営などを行いました。

9月13日(日) 七ヶ浜町：七の市商店街ありがとう祭(最終イベント)での陶器市開催

七の市商店街は七ヶ浜町で被災した「三浦商店」、「ホシ理容店」、「八木原美容院」、「フラワー花よし」、「カイロプラティック伊丹」、「夢麺」、「佐藤魚店」で構成され、この11月に正式な店舗へ移転します。地元の方々やボランティアの方々これまでの感謝をこめて、最終イベントの感謝祭が開催され、我々もチャリティー陶器市という形で参加しました。

開催の様子①



- AM8:00 会場でのテント設営を開始。器のコンテナを降ろし、総動員で準備を行ないました。コンテナから器を出し、梱包を解いてアイテムごとに並べます。当日は朝から蒸し暑く、あっという間に汗だくに。



- 今回も約90名もの作家の作品が並びました。主催者全員で開催前の打合せを行い、地元の太鼓パフォーマンスとともに10時からイベントが始まりました。今回も朝から多くの地元の方が集まり、長蛇の列が出来ました。



- 今回はテントスペースが小さかったため、開始直後は混乱を避けるために入場制限をして少しずつ入っていただきました。行列はしばらく続き、お屋前に落ち着きました。じっくり選んで行かれる方が多く、揃えの器を希望されるかたも多くみられました。梱包メンバーもとても大忙しでした。



- 会場脇の仮設住宅。今日はここからも住民の方が来てくれていました。七ヶ浜地区は規模が大きい為、復興住宅の進みが比較的早く(数が少ない為)、この秋にも引っ越しが出来るという話がよく聞かれました。引っ越しに向け、器はとてもありがたいという声も多々あり、我々ボランティアメンバーも非常にうれしく感じました。

イベントレイアウト

七の市商店街最後のイベント(感謝祭)ということで、今回は商店街から地元の皆さんへ、また出店者、我々ボランティアメンバーへ感謝の気持ちをこめて、カニ汁や押し寿司、流しそうめんの提供など、様々なイベントがありました。

んめえのあつと市ありがとう祭

平成23年12月11日のオープン以来ご来店、ご支援頂きました皆様に感謝を込めて、仮設店舗七の市商店街で最後のイベントとなります。

～タイムテーブル(予定)～

- 9:30～ スタート・あいさつ
- 9:55～ 来賓紹介
- 10:00～ 汐見太鼓
- 10:40～ ステージ企画・アサノタケフミ
- 11:20～ ステージ企画・ダイナース
- 11:00～ 食ブース開始
- 13:00～ ステージ企画・ダイナース
- 15:00 イベント終了

タガレンジャーもくるよ!

総合司会
アサノタケフミ

～出店ブース紹介～

丸善商店
焼き鳥・たこ焼き
お好み焼き
豆腐・惣菜販売
わんざぎ町内各
お子様歓迎!くじ引き

此の工房街 料理師
常夏子一タ新妻で
オリジナルのバッチをつくらう!
缶バッチ作り・販売

佐藤魚店
鮮魚販売
年チャン紅鮓、秋サンマなど
その他、魚三輪産産介
産直産直のブースです!

栃木・益子焼陶器市 手づくり支援プロジェクト

益子焼き陶芸作家約90名による手づくりの器を、協賛店の協力のもと被災地へ提供する活動を継続。今回は七ヶ浜町で出店!

赤値は市価の1/5～1/10程度の値段で200円～激安販売

食器・ピアカップ・魚皿、花器や冬季の小物など、合計3,000点

七の市商店街よりお知らせ

佐藤鮮魚店より
鮮魚等、町内の移動販売も行っておりますので、ご希望の方は下記までご連絡ください。
宮城県宮城郡七ヶ浜町代々崎浜字西17-3
TEL/FAX 022-357-2856 携帯電話 090-9532-7915

主催:七の市商店街
協力:手作り支援プロジェクト(栃木県)、認定NPO法人レスキューストックヤード、関西学院大学ボランティア有志
七ヶ浜復興促進団体7up-reformなど
問い合わせ先:090-9020-5887(担当:きずなハウス・郷古)



・汐見太鼓でオープニング



・振る舞われた渡り蟹の味噌汁と押し寿司



・焼き鳥などの食ブース

開催の様子②



・天気の大きな崩れもなく、約700個の器を提供し、無事イベント終了です。片づけをして、全体の総括、これまで商店街を支えてきた多くのメンバーが挨拶をし、4年間の最後のイベントを締めくくりました。我々も商店街の理事長、名古屋のボランティア(RSYさん)のメンバーと集合写真を撮って商店街を後にしました。

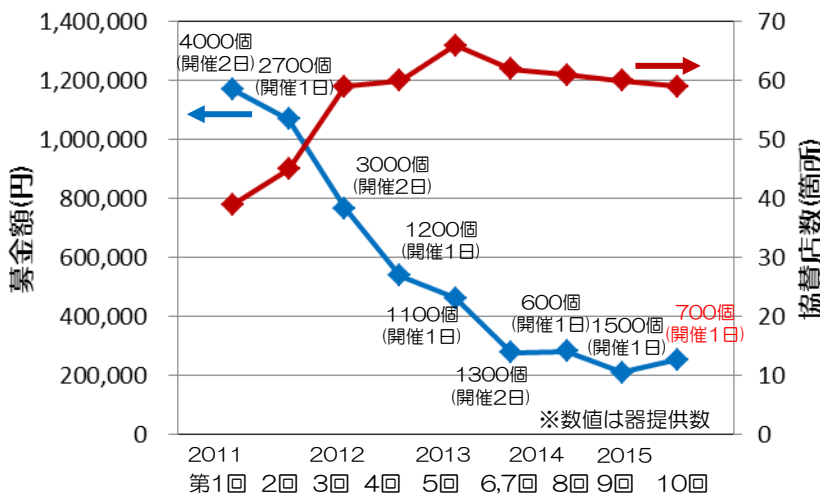
今回もチャリティー陶器市に多くの地元の方がいらして下さいました。新しいところで使う器が買えてよかった、また是非来て欲しいと言った声が聞かれました。ここ七ヶ浜町では災害復興住宅が年内で全て完成予定です。仮設住宅からの引っ越しに伴い、ますます器のニーズも大きくなると思います。

仮設住宅が無くなる日まで、我々へのニーズが無くなる日までこの活動を続けてゆきたいと思っています。

震災から4年半、様々な変化について

この4年半で東北の被災地に約16000個(無償やチャリティー販売)の器を提供し、売上(計204万円)を全て寄付してきました。それらは仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき、喜んでいただいています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの協力のもと、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2500~3000個の器を準備し現地へ持ってゆることができています。

七ヶ浜では平成29年の災害公営住宅の全戸完成に向けて、現状25%の進捗ですが、陶器市中はより多くのニーズが出てくること予想されますが、ので仮設住宅から現地では以前に比べ、じっくり器を選んでゆかれる方が増えています。仮設住宅では収納上の問題もあり、器を置ける数は限られてしましますが、。一方、幸いにも早期に復興住宅に移ることができた方々は、新たに家族分の揃いが欲しいなど、ある程度の数が必要で、また求める器の種類も長皿や小、中鉢など、これまで以上に多様なニーズが増えてきています。今後はこれらの現地の声をもとに、これから増えてゆく復興住宅でのニーズに応えてゆけるように準備をしてゆきたいと思えます。



手づくり支援プロジェクト募金額と協賛店数推移

募金に関してはこれまで同様に減少方向ですが、あらたな募金促進グッズの製作やさまざまなイベント活動を行い、維持してゆこうと考えています。あらたなグッズとしては革のキーホルダー、カードケースやパンケースなど(写真)を製作しています。また、これまでの支援活動を報告するPRイベントでの物産販売、岩手宮城などの各県人会での活動PRなども継続的に行っています。協賛店では新たな価値と募金しやすい値段設定などにより、好評を得ています。1店舗当たりの募金額が減少しても、より多くの方々が協力してくださることで、大きな力につながります。引き続きお力添えをいただけましたら幸甚です。

メンバーによる手づくりの募金促進グッズ



本革製のマウスパッド



本革製のコースター



本革キーホルダー



サンキャッチャー



手彫りハンコの絵葉書



鯨バッジ
(協力作家さんによる作品)



いろいろな革小物

第10回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

収支報告

- ・準備(無償/購入)器数 : 約2500点 (うち提供数: 700個)
- ・協力作家数 : 約90名(HPへの非記載分含む)
- ・協賛店数 : 60箇所(2015/9時点)
※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

収入(募金分+繰越分)

- ・合計(9/8時点) : 253,970円 (282,260円)
募金額内訳
 - 個人 : 133,000円(うち振込み83,000円)
 - 協賛店 : 120,970円(陶器市やイベントでの募金含む)
 - 繰越金(第9回) : 28,290円

支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- ・合計 : 251,285円
内訳
 - 作家への支払い : 69,550円
 - グッズ製作費/募金推進用材料費
(ボード/募金箱、報告書印刷費、郵送費、器着払送料など) : 181,735円

30,975円(第11回へ繰越)

チャリティー陶器市での収入(商店街での器販売分)

- ・合計 180,600円

売上は全額(180,600円)を、七の市商店街、災害支援ボランティア団体のRSYへ寄付し、今後の新しい商店街の継続に向け運営費などに使っていただくこととしました。

-
- ・その他
(宿泊費@10名 計42,000円 : 全てメンバー自費
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は七ヶ浜町の方々のたくさんの笑顔を見ることができました。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第10回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。震災から4年半、時間の経過とともに支援の熱が冷めてゆく中、協賛店や作家、メンバーの広がりや各地からの支援の輪が繋がり、これまで同様に継続、開催することができました。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきて様々な現地の現状、人々の感情の変化などを見てきました。仮設住宅の居住期間の延長措置とともに、復興住宅への引越しも始まっています。また流された商店などの地元物産販売の全国ネット展開や新たな付加価値を付けた商品開発など、以前では想像もしなかったであろう大きな変化も生まれています。震災があったからこそその新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。東北のひとびとの持ち味である、決してあきらめない心と日本の多くの秀逸な技術力が合わさって危機をチャンスへと活かす動きが広がっていると思います。

私たちもこれから徐々に増えてゆく災害公営住宅の完成に向け、器のサイズや種類など、変わってきた地元の方々のニーズに合わせてるとともに、どのような支援のかたちがいいのか、継続の仕方を含め試行錯誤をしてゆこうと思っています。小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しくお願いいたします。

手づくり支援プロジェクト 光房みち

第10回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



・第10回お届けメンバー

吉田弘道	鈴木祥子	斉藤有紀	井上直樹	井上涼子
谷雅樹	豊田将平	松谷正博	浦田健太	山脇琢磨
木村世傑	川又和子			

・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	増淵葉子
相澤なみほ	梶山友里	坂本光永	成田真澄	増永典子
阿久津雅土	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	豆腐なる美
岩見晋介	加藤博史	佐藤敬	野水美里	Masa
池上暁生	加藤弓	茂野俊也	長谷川奈美	三戸綾乃
伊佐名美子	加藤喜道	清水秀輝	長豊陶苑	溝口丈
石嶋哲彦	加藤麻里	荘司武臣	蓮見かおり	宮島将實
いちかわ清美	川崎萌	菅谷太良	原泰弘	松下曜子
伊藤331	川島郁朗	薄田いと	樋口早苗	松下忠生
大塚温子	上條富子	ヅェル・E・ブガール	平泉志津子	棟方美峰
大津広子	川又和子	関口洋平	平松龍馬	もときみちこ
奥住久雄	岸効	関口まきこ	福地綾子	
小野悦子	北川功	関川佳古	福田惣一	吉澤奈保子
おぬきなつ	木村世傑		福山龍之介	アソレイヴ
岡本芳久	国友武志	瀧昭典	藤田安雄	若菜綾子
岡本有希子	糸川通治	豊田雅代	藤井美香	渡辺キ工
岡田直恵	倉前幸徳	陶遊舎谷口	村カカリ	渡辺六郎
岡部耕太郎	栗原節夫	戸塚佳奈	堀水小夜	渡辺克典
おとがわさとこ	桑原純		堀水達雄	その他多数
尾関翼郎	後藤義国			
	近藤康弘			

・支援してくださった多くの方々

協賛店の方々、光房みちの友人、職場のみなさん、メンバーゆかりの多くの方々、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社

• 協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

Company

シヨイコム株式会社
ソフトバンク インターパーク宇都宮
ソフトバンク宇都宮東
ソフトバンク鹿沼
ソフトバンク古河
ソフトバンク真岡

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと
作家館 つかもとギャラリー
陶芸広場つかもと
つかもと記念館
株式会社 日本ヴォーグ社
国際医療福祉大学病院
EX-サービス株式会社

Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE
Cafe R hana
QupuQupu
Café KENZOSUN
益古時計
GALLERY TAS TAS
CAFE CENTRO
作坊 吃(ゾーフアンチャー
イチトニブンノイチ
ミハシカフェ

Select Shop

ハナムグリ
GOURD+m
うつわ坂
アートショップ向井
相玄窯の店 木洩れ日
仁平古家具店
益子 第二倉庫
釉日

Beauty

PESCA-COCCA
Handmade soap SQUAMISH
salon kyoko
minori理容所
UppityCovo
hair Labo natura
Ripple Marks HAIR
seal hair work

Education

バナナキッズ (英会話教室)
雀宮校、戸祭校

Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須
NAO テニスクラブ

Food

pain de musha musha and coffee
パン茶房 小梅堂
ぱんとおかし ノアン
食工房NO-RA
とらっとりあ天野
Taverna Sakurai
銀座園
サン・クリストフォロ
Bis-t-eria Meli-Melo
TORATTORIA da RIOBA
鮎暁
Conifers
らー麺 藤原家

ホイッスル用の革を提供していただいています。
Special thanks!

オーダーメイド靴
銀座てつじ屋

レザークラフト
井戸辰ドットコム
READY OR ORDER
石井裁断所
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ
株式会社クイーポ

第11回手づくり支援プロジェクトについて

第11回は宮城県の巨理/山元町あたりを考えていますが、自治体のニーズやイベントのタイミングなどと調整しながら検討を進めてゆく予定です。ここ数年は宮城県のほぼ沿岸の全域で開催し、今後は福島県や震災直後に支援を行った岩手県での開催も検討を行ってゆこうと考えています。



開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。
引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索

<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込

足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334

口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら

作家さんと第10回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト
手づくりの器を直接被災地へ届けよう

